

## 生涯花屋で

原田勝造さん

88歳 (錦町区)

をして遊びました」

今は娘さんに手伝ってもらいながら店を続けている。「毎週金曜日には、朝4時に起きて、下関の合同花市場まで仕入れに行きますよ」と言う。暇をみては、家の裏の畑の世話をするのが楽しみで、豆やごぼう、大根などを作っている。「畑仕事が、健康にいいんでしょう。自分で作った野菜を自分で食べる。薬を使わないので安心ですしね」と。食べ物の好き嫌いほとんどなく、晩酌はビールをコップ2杯と酒1合。風呂上がりには毎日体操をしている。

「健康と生き甲斐のためにも、身体の続く限りは商売を続けたいですね。お客さんから、原田の花はよいと言ってもらえることが、一番励みになります」と言う。

細書きのペンと、色鉛筆でのミニ芸術。たしかに自己満足の世界かも知れないが、生活に何

生活に潤いを：

しおりアート



岡功さん

(正明市5区)

エンジヨイ  
仲間達

29



らかのアクセントをつけるのは確かである。油絵とか水彩画や水墨画などのように、場所もいらず、気の向いた時に、落書き気分で行われることができるこの作業、芸術家ぶるわけでもなく、気楽に絵を楽しむ、心を潤すことができる。ちよっと本にはさみ、手作り気分を味わってみるのも一興。生活を楽しまたいものである。

昭和58年退職後、県主催の高校開放講座「絵画入門講座」に入り、念願の油絵描きが始まる。入門講座受講仲間で「絵画クラブ」を結成。坂倉秀典先生の指導を受け、第2回長門市民芸術祭に出展した絵画の部「夕風」で大賞を受賞する。



「大賞との連絡を受けたときは一瞬耳を疑いました。この50号(横120cm×縦90cm)の作品は、失敗した風景画や人物の上に絵の具を重ね、また、船の構成も3回変更を加えています。木ワ

阿武三男さん  
(中山区)



22

ちよっと小耳にはさんだ

第2回市民芸術祭で大賞を受賞  
「創作意欲が湧いてきます」

クも手作りにより組み立てです。それだけに愛着は深く感激もひとしおです」

「会社勤め時代に油絵を描きたいとの思いはあったが、時間的余裕がなく夫婦で美術館巡りをよくしたものです」

昭和58年退職後、県主催の高校開放講座「絵画入門講座」に入り、念願の油絵描きが始まる。